

7. リンパ球のシクロスポリン感受性の疾患別特異性

(東京薬科大学臨床薬理学教室) 小澤賢一、小田真之、
平野俊彦、岡 希太郎、
(東京医科大学八王子医療センター薬剤部) 竹内裕紀、
(同 臓器移植部) 櫻井悦夫、
(同 第五外科) 齊藤燈、小崎浩一、松野直徒、小崎正巳、
(同 腎臓内科) 吉田雅治、
(同 皮膚科) 梅沢慶紀、市川眞喜子、
(東京医科大学皮膚科) 平田雅子、大井綱郎、古賀道之

目的：免疫抑制療法の対象となる患者のリンパ球のシクロスポリン(CyA)感受性と、臨床経過との関連を検討することを目的とした。

対象、方法：乾癬患者17名を対象とし、末梢血リンパ球のCyA感受性をマイトゲン試験法で調べた。
結果：CyAのIC₅₀と、乾癬の重症度を表すPASIスコアの改善率との間に有意な相関性が見られた(p<0.01)。しかし、血中トラフレベルと改善率間には有意な相関は見られなかった。

結論：乾癬患者においてCyAのIC₅₀を測定することは、CyAの治療効果を予測するのに有用であることを示唆した。

8 腎移植患者における末梢血リンパ球のシクロスポリン感受性と臨床成績

八王子医療センター薬剤部 竹内裕紀 奥山清
外科学第五 内山正美 小崎浩一 松野直徒
長尾桓 小崎正巳 櫻井悦夫
東薬大臨薬理 平野俊彦 岡希太郎
腎移植前患者のリンパ球幼若化を50%抑制するCYA濃度(IC50)を求め、CYA感受性と臨床成績との関連性を検討した。CYAのIC50>10ng/mlの12例を低感受性群(LS群)、CYAのIC50<10ng/mlの19例を高感受性群(HS群)とした。急性拒絶発症回数はLS群で多い傾向にあったが有意差はなかった。CYAトラフレベル推移はLS群とHS群で差はなかった。血清Cr値はHS群で安定していたが、LS群は徐々に上昇し術後18ヶ月目にHS群の平均血清Cr値1.72mg/dlに比べ、2.90mg/dlとP<0.02で有意に高値を示した。CYA血中濃度は同等だが、LS群では低感受性のため免疫抑制効果が不十分であったと考えられた。CYA血中濃度測定に、CYA感受性試験を加えることで感受性に基づく理論的免疫抑制療法が可能になると考えられた。